

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200026		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム千本松「福寿苑」なごみユニット		
所在地	岐阜県海津市海津町福江639-1番地		
自己評価作成日	令和3年10月31日	評価結果市町村受理日	令和4年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosyoCd=2192200026-00&SerViceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和3年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

以前は外出支援として毎月近くの喫茶店に行き、地域との交流をしながらご利用者に気分転換をしていただいておりますが、現在は新型コロナ感染予防対策により外出支援が困難になりました。こんな状況でもご利用者に楽しんでいただきたいという思いで、毎月季節のイベントや食レクを取り入れ生き生きとした毎日になるよう工夫しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「いつまでも健康で、生き生きと、生きがいをもって生活が送れる為の支援」の理念に合わせ、利用者のできる事が継続し、できる限り自立した生活が送れるようにしている。洗濯物干しやたたみ、花や野菜作り、おやつ作り等で活躍できる場をつくり、張り合いや楽しみのある生活にしている。コロナ禍で地域交流や外出はできないが、事業所内喫茶、寿司・牛丼パーティ等で外食に行った気分を味わったり、レクリエーションや作品作りをする等で工夫している。職員の提案や意見を取り入れ、ベッド柵に手作りカバーを掛け壁面への衝撃緩衝用に部屋飾り風の段ボールを当てて利用者の安全への配慮も心掛けている。家庭事情に合わせた勤務や得意な分野を活かした業務分担等で働きやすい職場にしている。外部研修への希望受講や年間計画での内部研修で質の向上に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、職員の心得を制定している。職員会議で、理念、心得を唱和し、理念の共有及び介護に対する意識の向上に努めている。	理念を基に、ユニット毎に職員で話し合い年度目標を立てている。出退勤時等で目に付く場所に理念と目標を掲示して、意識して実践できるようにしている。毎月の会議で日々のケアを振り返り、年度末に目標の達成を評価し、次年度の目標に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域のイベントへの積極的な参加や保育園児の訪問、地元ボランティアの来苑依頼等で地域交流を深めていたが、現在は新型コロナウイルス感染防止対策により地域との交流を行うことができていない。	コロナ禍で例年のような地域交流はできないが、住民から野菜をもらったり、隣接する美容院へ行ったりしている。地元の車イスボランティアに、屋外で車イスの修理や点検をしてもらっている。	コロナ感染収束時に、今までのような地域交流を再開できる取り組みと共に、更に地域との関係を深められることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設主催の運営推進会議の際、自治会長、民生委員、消防本部、地元駐在所等の方々に参加依頼をし、日常の状況や運営方針の報告をしグループホームや認知症についての理解を深めていただく活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行政をはじめ警察、消防、自治会長、民生委員、ご家族に参加依頼をし活動報告、意見交流を行うことでサービスの向上に努めている。近年は新型コロナ対策により書面にて活動報告を行っている。	書面会議の為、事前に意見を求める用紙を同封し、事業所の状況・行事予定・職員の異動や事故等を一緒に郵送している。「利用者の様子がわかり安心できた、アクシデント報告を共有することができた」との意見がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月毎に開催される海津市介護支援専門員連絡会議で意見交換しているが近年は新型コロナ対策により例年通りの報告は困難であった。	書類提出時に事業所の実情を伝え、相談しやすい関係を築くようしている。権利擁護の相談やコロナ感染症予防物品購入等に関して助言をもらっている。市主催のリモート会議や研修、電話やメール等にて情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外で開催される身体拘束に関する研修や講習に参加することで職員全体で共通認識を持つようになっている。また、身体拘束をしなくても安全に過ごせるような環境作り日々取り組んでいる。	身体拘束廃止に関する指針を定め、委員会を開催し職員への研修を実施している。虐待の芽チェックリストによる振り返り、ポスターを作成し意識啓発、マニュアルの見直し等で拘束しないケアに取り組んでいる。言葉遣いや対応について会議でも理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する勉強会を定期的開催し、虐待防止の徹底に努めている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者様がおられるため職員全体で制度内容の理解に努めている。また、定期的に勉強会を開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に、ご家族に十分な時間をいただき説明を行っている。都度疑問点をお聞きし、説明に不足がないか確認できる限りご本人、ご家族の不安が軽減されるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	例年であれば運営推進会議や面会時にご意見をいただいているが、近年は新型コロナ対策によりご家族にお会いする機会が減少しているため定期的にアンケートを発送し意見をいただいている。	玄関先でアクリル板使用し時間制限しての面会の為、毎月利用者の様子を知らせる写真や手紙を送付し、意見や要望を聞いている。必要時は電話やラインで意見を聞いている。年1回は家族アンケートを実施し質問や要望等をもっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体会議で意見交換の時間を設けている。管理者による面談を年に2回実施している。	管理者は、日常の業務内や会議で提案や要望を聞いている。事業所内喫茶や寿司パーティ等の提案を取り入れている。家庭事情に配慮した勤務や研修受講の希望を聞き、働きやすい職場にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	管理者は職員がやりがいを持って働ける職場をめざし、一人ひとりの生活環境を理解し、勤務体制を整え、介護職としてキャリアアップできるよう指導している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に応じた外部研修の参加を促し、スキルアップややる気に繋げている。また、研修で学んだことを職員会議で報告し、話し合うことにより全職員が共有できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年は毎月開催される各管理者の集いにて意見交流を行ったり、その際外部講師を招き勉強会などを行っていたが新型コロナにより近年は例年に比べ同業の方との交流の機会が少なくなった。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の事前面談よりご本人のニーズを抽出し、できる限りご本人の意向に沿ったサービス提供を行うようにしている。そのために、入所前はもちろん入所直後もご本人の心身状態の把握を重視している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族から、今までの思いや今後の希望を聞き取り、ご家族と施設職員で共有することにより、ご家族を含めたチーム全体で利用者様の支援にあたっている。入所直後はご家族も不安があることを理解し、サービス計画書にいつでも相談しやすい言葉を取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族が入所にあたり、不安や希望等言いやすい環境を整え、ご本人ご家族双方が納得されるようなサービス提供を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の一人ひとりの現在までの生活や経験を知ることで、その時々々の知恵をいただき、お互いに支え合う関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全職員がご家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報を共有し、共に支え合う関係性を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	例年であればご家族、ご友人等どなたでも訪問していただけるよう呼びかけ馴染みの関係が継続できるよう支援しているが、新型コロナ対策により面会の制限をせざるを得なくなった為施設の電話でのビデオ通話にて対応し馴染みの関係が継続できるようにしている。	馴染みの場所へ行く事や人に会う事はできないが、ビデオ電話で話をしたり、玄関先で面会を行ったり、事務所の電話を取り次いだりして関係が途切れないように支援している。家族や友人に手紙や年賀状を書いてもらう支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で会話が弾みやすい話題の提供や複数の利用者様で楽しめるレクリエーション等の提供を行い、活動を通じて顔なじみの関係が築かれるよう配慮している。また、それぞれの利用者様の持っている力を把握し、利用者様同士で支え合い、助け合う関係性の構築に努めている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	逝去による契約終了がほとんどである為、ご家族に寄り添うようなお声掛けをしている。転居や入院により契約終了となった方には、困ったことがあればいつでも相談してくださいとお伝えし、少しでも安心していただける存在になれるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際にご本人ご家族に今後の生活の意向をお聞きし、できる限り希望に沿った生活が営めるよう工夫している。ご本人が意向を示すことができない時は、アセスメントから生活歴や習慣を把握し本人らしい生活を続けることができるよう努めている。	その日の気分や状態を把握し、目線を合わせて思いを聞いている。広告等を見て要望を言う人もいて、居室や入浴時に聞く時もある。困難な人には顔や目の表情、座位姿勢の保持具合等で把握している。起床や就寝時間も利用者の思いに添った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、ご本人、ご家族、利用中のサービス事業所より情報をいただき馴染みの暮らしや、生活環境等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床から就寝までの生活の関わりの中で利用者様の状態を観察、把握し職員間で情報共有し利用者様の支援にあたっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングと3ヶ月に一度のサービス担当者会議にてその時々状況に合ったサービスの提案やケア方法などを話し合いケアの向上に繋げている。また、状態に変化がみられた際は早急にサービス担当者会議を開催し様々な視点からの介護計画の見直しを行っている。	本人や家族の希望を聞き、医師の意見も参考に介護計画を作成している。ユニット毎に全職員で毎月モニタリングを実施し、必要時は見直している。3ヶ月毎に担当者会議で話し合い、計画の原案と確認書を家族に送付し、意見や要望を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日常の様子を観察し記録に残し、変化がみられた際は朝夕の申し送りの時に職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれ異なる状況から入所されるため、ご本人をはじめご家族の意向を細かく確認しながら安心していただける支援を目指している。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族や地域の方々が参加する運営推進会議で地域資源の活用等の意見や助言をいただき、利用者様の日々の生活に反映させている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご本人・ご家族の意向を確認した上で、ご家族の協力の元継続した受診へ繋げている。その際、施設での生活状況や体調についても記載し情報共有に努めている。車椅子の方は病院への送迎支援も相談の上行っている。	入居時に協力医に変更する人もいる。家族の付き添いでかかりつけ医を受診時は、書面又は口頭で様子を伝え受診後に報告を受けている。協力医とは24時間連絡がとれる体制がある。歯科の訪問診療や鍼灸師の治療を利用する人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で、体調変化や気づきを介護職員との申し送りや連絡ノート、介護記録で情報共有している。その中で、かかりつけ医や専門医への受診が必要と判断した場合はご家族とも相談し受診へ繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナで病院での面会は出来ないが、定期的に病院看護師やご家族と情報共有するようしている。環境が変わることでのご本人へのリスクも考慮し、治療が落ち着いた段階で早期に退院できるよう日程調整をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で、看取りについての意向を確認している。状態変化時にはご家族に相談し再度意向を確認した上で医師に伝え、ケアの方向性を決めるようにしている。ご本人・ご家族が最後に時間を心穏やかに過ごしていただけるよう、体制づくりに取り組んでいる。	契約時に看取り介護に関する指針を説明している。状態変化の都度、看護師から説明し意向の確認をし希望に合わせている。医師が家族に説明する場合もある。看護師が指導し職員が情報を共有し看取りの支援をしている。最期の時間を家族も一緒に過ごせるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状態に応じ職員が初期対応できるよう勉強会や救命訓練を実施している。看護師不在時は電話で対応を相談することもある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上利用者様参加型の防災訓練・避難訓練を実施している。日中想定と夜間想定それぞれ行い、昼夜問わず素早く対応できるよう努めている。また、定期的に非常持ち出し品の点検や見直しを行い、避難後も最低限の生活の確保はできるようにしている。	火災、水害や夜間想定を含めた避難訓練を年4回実施している。利用者が一緒に参加時と職員のみでも訓練を行い、反省点や課題を話し合っている。非常持ち出し品(備蓄品)の搬出訓練、備蓄品の見直しや検討をしている。自治会長に協力を依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の個別性を大切にするため、情報収集をしっかりと行っている。また、情報収集をする中で個人情報である事、守秘義務がある事を十分理解した対応に努めている。	言葉遣いや対応について、勉強会や接遇チェックリストで確認し注意し合っている。トイレ誘導時は小声にし、身振りで誘う時もある。写真や表札の掲示は希望に合わせ、送付写真は他の利用者が解らない工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を遠慮なく伝えていただけるよう普段からコミュニケーションを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、時間にこだわらず利用者様の意向に沿うようなスケジュールをとっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族と相談しながら、ご本人の好みや長年の生活習慣に合わせたおしゃれをできるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	安全においしく食事ができるよう食材の下処理に時間をかけている。また、食事の際の配席も工夫をしている。	プランターで育てた野菜や頂いた野菜を使用し、食べる楽しみとなるようにしている。下拵えや各自のテーブル拭き等のできることを一緒にしてもらっている。会話を楽しむ人や食欲のない人の席に配慮し、寿司・牛丼パーティ、弁当、手作りおやつ等で食レクとして工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量・食事量を記録することにより栄養状態を把握し、不足がある際には補助食品等で補い十分な栄養を摂取できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方には、その都度口腔ケアの声かけを実施し確実に口腔ケアをしていただくようにしている。介助が必要な方には職員がその方にあつた支援を行っている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の様子を察知し、羞恥心に配慮した声かけや介助を行っている。また身体の状態を把握し、オムツが本当に必要かどうか定期的に話し合いを行っている。	排泄パターンやその人の状態に合わせて、声かけや二人介助してトイレでの排泄に努めている。「便所ココ、トイレ」と大きく表示し、パッドの検討をして自立に向けた支援をしている。声かけする事でリハビリパンツから布パンツに改善した人がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事に食物繊維の多い食品を取り入れたり、散歩に出かける等で排便の状態をよくする工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の体調や気持ちに配慮しながら介護状態に合わせて特浴や個浴にて対応している。声かけのタイミングも工夫している。	その人の希望に合わせてボディソープの使用、入浴時間や湯温の調整、入浴剤等で楽しみな入浴にしている。状態に合わせて個浴、機械浴、足浴、手浴、清拭等に応じている。好まない人には、職員の交代、日時の変更や声かけ等で工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を決めず、利用者様本位で休みたい時間に休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の確認は複数のスタッフにて行い、誤薬がないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月ごとにレクリエーション担当の係を決め、季節に応じたレクリエーションを取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気温が良い日は利用者様の希望に沿って散歩へ出かけたリテラスにて日光浴にお誘いしている。	天気の良い日は車イスの人と一緒に散歩に出ている。テラスで食事やお茶をしたり、プランターの花や野菜の水やりをしたりして、外気に触れる機会を作っている。以前は、喫茶店や買い物、季節毎の遠出、家族に協力を得ての外出等を行っていた。	

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止の為基本的に利用者様の金銭所持はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	新型コロナ対策により面会制限がある為施設の電話でビデオ通話を行っている。ご希望があれば手紙の支援も行っていきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の皆様に安全に安心して過ごしていただくため明るさや物の置き場所に配慮をしている。定期的に見直しを行い安全かつ居心地の良い空間づくりに努めている。	家庭的な雰囲気も大切にしてテラスで洗濯物を干し野菜や花を育てている。玄関やリビングに観葉植物や季節の作品を飾り、行事写真を掲示している。室温や明るさの調整をしつつ空気清浄機の設置、換気や消毒等で感染症予防にも心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様のその時々気分により、リビングや居室で自由に過ごしていただくようにしている。居室は全室完全個室の為プライベートな時間を楽しむことができるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談し好みの居室づくりに取り組んでいる。定期的に模様替えを行い、危険防止や気分転換に努めている。	使い慣れたTV、机、イス、時計、化粧品等を持ち込んでいる。趣味の作品や家族写真を飾り、新聞や俳句の本を読む等、思い思いに過ごせるようにしている。畳使用にしたり家具の配置を換えたりして、安全と気分転換に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」「支援が必要なこと」を把握してできる限り自分の力を維持できるよう支援している。ケア会議等でできる限り自立した生活を送るためにはどのような支援が必要か定期的に話し合いを行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200026		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム千本松「福寿苑」 やすらぎユニット		
所在地	岐阜県海津市海津町福江639-1番地		
自己評価作成日	令和3年10月31日	評価結果市町村受理日	令和4年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2192200026-00&SerVi.ceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和3年12月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、職員の心得を制定している。職員会議で、理念、心得を唱和し、理念の共有及び介護に対する意識の向上に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域のイベントへの積極的な参加や保育園児の訪問、地元ボランティアの来苑依頼等で地域交流を深めていたが、現在は新型コロナウイルス感染防止対策により地域との交流を行うことができていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設主催の運営推進会議の際、自治会長、民生委員、消防本部、地元駐在所等の方々に参加依頼をし、日常の状況や運営方針の報告をしグループホームや認知症についての理解を深めていただく活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行政をはじめ警察、消防、自治会長、民生委員、ご家族に参加依頼をし活動報告、意見交流を行うことでサービスの向上に努めている。近年は新型コロナ対策により書面にて活動報告を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月毎に開催される海津市介護支援専門員連絡会議で意見交換しているが近年は新型コロナ対策により例年通りの報告は困難であった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外で開催される身体拘束に関する研修や講習に参加することで職員全体で共通認識を持つようにしている。また、身体拘束をしなくても安全に過ごせるような環境作り日々取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する勉強会を定期的開催し、虐待防止の徹底に努めている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者様がおられる為職員全体で制度内容の理解に努めている。また、定期的に勉強会を開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前にご家族に十分な時間をいただき説明を行っている。都度疑問点をお聞きし、説明に不足がないか確認できる限りご本人、ご家族の不安が軽減されるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	例年であれば運営推進会議や面会時にご意見をいただいているが、近年は新型コロナ対策によりご家族にお会いする機会が減少しているため定期的にアンケートを発送し意見をいただいている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体会議で意見交換の時間を設けている。管理者による面談を年に2回実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員がやりがいを持って働ける職場を目指し、一人ひとりの生活環境を理解し、勤務体制を整え、介護職としてキャリアアップできるよう指導している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に応じた外部研修の参加を促し、スキルアップややる気に繋げている。また、研修で学んだことを職員会議で報告し、話し合うことにより全職員が共有できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年は毎月開催される各管理者の集いにて意見交流を行ったり、その際外部講師を招き勉強会などを行っていたが新型コロナにより近年は例年に比べ同業の方との交流の機会が少なくなった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の事前面談よりご本人のニーズを抽出し、できる限りご本人の意向に沿ったサービス提供を行うようにしている。そのため、入所前はもちろん入所直後もご本人の心身状態の把握を重視している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族から、今までの思いや今後の希望を聞き取り、ご家族と施設職員で共有することにより、ご家族を含めたチーム全体で利用者様の支援にあたっている。入所直後はご家族も不安がある事を理解し、サービス計画書にいつでも相談しやすいような言葉を取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族が入所にあたり、不安や希望等言いやすい環境を整え、ご本人、ご家族双方が納得できるようなサービス提供を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の一人ひとりの現在までの生活や経験を知ること、その時々々の知恵をいただき、お互いに支え合う関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全職員がご家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報を共有し、共に支え合う関係性を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	例年であればご家族、ご友人等どなたでも訪問していただけるよう呼びかけ馴染みの関係が継続できるよう支援しているが、新型コロナ対策により面会の制限をせざるを得なくなった為施設の電話でのビデオ通話にて対応し馴染みの関係が継続できるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で会話が弾みやすい話題の提供や複数の利用者様で楽しめるレクリエーション等の提供を行い、活動を通じて顔なじみの関係が築かれるよう配慮している。また、それぞれの利用者様の持っている力を把握し利用者様同士で支え合い助け合う関係性の構築に努めている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	逝去による契約終了がほとんどである為、ご家族の気持ちに寄り添うようなお声掛けをしている。転居や入院により契約終了となった方には、困ったことがあればいつでも相談してくださいとお伝えし、少しでも安心していただける存在になれるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所の際にご本人ご家族に今後の生活に対する意向をお聞きし、できる限り希望に沿った生活を営めるよう工夫している。ご本人が意向を示すことができない時は、アセスメントから生活歴や習慣を把握し本人らしい生活を続けることができるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、ご本人、ご家族、利用中のサービス事業所より情報をいただき馴染みの暮らしや、生活環境等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床から就寝までの生活の関わりの中で利用者様の状態を観察、把握し職員間で情報共有し利用者様の支援にあたっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングと3ヶ月に一度のサービス担当者会議にてその時々状況に合ったサービスの提案やケア方法などを話し合いケアの向上に繋げている。また、状態に変化がみられた際は早急にサービス担当者会議を開催し様々な視点からの介護計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日常の様子を観察し、記録に残し変化がみられた際は朝夕の申し送りの時に職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれ異なる状況から入所される為、ご本人をはじめご家族の意向を細かく確認しながら安心していただける支援を目指している。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族や地域の方々が参加する運営推進会議で地域資源の活用等の意見や助言をいただき、利用者様の日々の生活に反映させている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご本人・ご家族の意向を確認した上で、ご家族の協力の元継続した受診へ繋げている。その際、施設での生活状況や体調についても記載し情報共有に努めている。車椅子の方は病院への送迎支援も相談の上行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で、体調変化や気づきを介護職員との申し送りや連絡ノート、介護記録で情報共有している。その中で、かかりつけ医や専門医への受診が必要と判断した場合はご家族とも相談し受診へ繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナで病院での面会は出来ないが、定期的に病院看護師やご家族と情報共有するようしている。環境が変わることでのご本人へのリスクも考慮し、治療が落ち着いた段階で早期に退院できるよう日程調整をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で、看取りについての意向を確認している。状態変化時にはご家族に相談し再度意向を確認した上で医師に伝え、ケアの方向性を決めるようにしている。ご本人・ご家族が最後に時間を心穏やかに過ごしていただけるよう、体制づくりに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状態に応じ職員が初期対応できるよう勉強会や救命訓練を実施している。看護師不在時は電話で対応を相談することもある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上利用者様参加型の防災訓練・避難訓練を実施している。日中想定と夜間想定それぞれ行い、昼夜問わず正しい対応ができるよう努めている。また、定期的に非常持ち出し品の点検や見直しを行い避難後も最低限の生活の確保はできるようにしている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様個人への支援の際は他の利用者様との区別を図りご自身に合わせた対応をしている。また、個人情報や守秘義務を十分理解し、責任のある行動に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より利用者様との会話に努め、思いや希望を知る努力をしている。スタッフ間で情報共有し、ご本人の思いが叶う支援を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、都合を配慮できる体制で利用者様の意向に沿うスケジュールをとっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍で美容院への外出もできない状況ではあるが、出張美容室を利用し施設内で理美容できる体制をとった。また、利用者様に合わせその日の衣装選びを実践している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の口腔内の状態や嚥下状態に合わせる下処理を実施し、安全におしく召し上がっていただく工夫をするるとともに楽しい食事になるよう努めているが実際はコロナ禍で食事中的会話も困難な状況である。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給量を記録し不足がみられる場合は摂取の声かけを実践している。食事量が少ない場合も声かけにより無理のない程度に召し上がっていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方には声かけにて口腔ケアを実施していただく習慣が整っている。介助が必要な方には居室にてその方にあつた支援を実施している。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様に合わせた紙パンツやパットを選択し、夜間と日中で変更するなどしている。できる限り自立にてできるよう「待つ」ことを心がけている。また、パット交換が必要な方には定期的に交換実施をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動でなるべく自然に排便ができるよう工夫している。必要な方には医師に相談し服薬や座薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分を考慮しその方に合った入浴方法で支援している。また、入浴剤を使用するなどリラックスして入浴できるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様のタイミングで休んでいただいている。居室やリビングで自由に過ごされる為、就寝時間は定めていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の確認は複数のスタッフで実施し、誤薬の防止に努めている。また、利用者様が飲み込むまで見守りを行うことで落薬防止をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍で外出支援ができていない。レク係が趣向を凝らし施設内でできるレクリエーションを実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でできていない。近隣への散歩を実施し気分転換に繋げている。		

グループホーム千本松「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル防止の為、基本的に利用者様の金銭所持はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で面会ができていない為電話をできるようにしている。希望により手紙やはがきの送付の支援を行っていきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心がけている。コロナ禍の為消毒を徹底し、空気清浄機を全日運転させている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全ての利用者様が個室の為、自由に過ごすことができる空間は整っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の利用者様に合ったレイアウトにできるようご本人やご家族と相談し家具等の配置を行っている。定期的に見直しを行い、模様替えを実施している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に「見守ること」を意識し、過剰な支援にならないよう努め、できることを継続できるようにしている。		